

二	同時代の社会科学	22
三	政府の科学批判	25
四	道徳統計学批判	28
五	「直接観察」にたいする確信	29
六	モノグラフ法の生成	31

第三章 「直接観察」のガイドと家族モノグラフ

一	「直接観察」の体系化	33
二	素材収集の方法	34
三	上ハルツ敏夫の家族モノグラフ	40
四	家計の加工と分析	53
五	家族モノグラフの解読	57

第四章 世紀転換期の「直接観察」

一	ル・プレー学派の分裂	66
二	「直接観察」の隆盛	67

第二部 統計調査の革新——エルンスト・エンゲル

第五章 エンゲルの社会調査活動……………72

一 遍歴時代……………72

二 統計局長時代……………75

三 統計局長時代の活動……………77

四 老年期の調査活動……………83

五 官庁統計の整備と家計調査の確立……………85

第六章 官庁統計の革新者……………87

一 ザクセン王国統計局の改革……………87

二 プロイセン王国統計局の革新……………95

三 「統計ゼミナール」の開設……………98

第七章 家計調査の彫琢者……………102

一 ベルギー政府の家計調査……………102

二 家計調査との出会い……………106

三 家計法則の発見……………107

四	家計調査の省察	110
五	家計研究の展開	115

第八章 世紀転換期の統計調査と現地調査

一	政府の統計調査	120
二	社会改良的な統計調査	121
三	家計調査の興隆	122
四	大学ゼミナールと現地調査	123

第三部 社会調査の学術化——マックス・ヴェーバー

第九章 ヴェーバーの社会調査活動

一	社会調査活動の再発見	128
二	時期区分	129
三	社会調査と現実科学	132
四	先行研究	133

第二〇章 社会調査への出立

- 一 社会政策学会の農業労働調査……………136
- 二 ゲーレの「観察」とその擁護……………145
- 三 福音社会会議の農業労働調査……………149
- 四 社会調査の学問的な受容……………158

第二一章 社会調査をめぐる交流

- 一 社会科学雑誌の編者としての活動……………160
- 二 「人間観察」……………161
- 三 ブランクの投票研究……………163
- 四 レーフエンシュタインとの交流……………170
- 五 レーフエンシュタインの調査結果……………176
- 六 新試行の社会調査……………187

第二二章 織物労働調査

- 一 調査の背景と経緯……………189
- 二 織布工の労働能率分析……………196
- 三 緩怠労働者の事例分析……………204
- 四 織物労働調査がもたらしたもの……………210

第三章 社会調査を基軸とする学会活動

213

- 一 社会政策学会の工業労働調査…………… 213
- 二 若手研究者の現地調査…………… 223
- 三 社会学会の設立と新聞調査…………… 230
- 四 経験的社会学の創出…………… 238

第四章 社会調査の進展を阻むもの

240

- 一 社会政策学会の討議…………… 240
- 二 若手研究者の素材分析の方法をめぐる論争…………… 246
- 三 学会活動をめぐる軋轢…………… 258
- 四 学会活動の障壁…………… 262

第五章 後期の社会調査活動

265

- 一 社会調査活動の持続…………… 265
- 二 社会調査活動を想起させる叙述…………… 269
- 三 調査活動の持続と最晩年の著作…………… 275

第十六章 世紀転換期の社会調査の学術化

277

- 一 社会調査活動の軌跡…………… 277

二	社会調査の学問的彫琢	278
三	社会調査活動の先進性	280
結 語	社会調査を基盤とする社会科学の創造	282

あとがき

引用参考文献

年表一 ル・プレーおよびエンゲルの生涯と社会調査活動

年表二 ヴェーバーの生涯と社会調査活動

事項索引

人名索引